今月の15首　佐佐木幸綱・選

オハイオ州三六〇度夕焼けの屋上で泣くな一人で泣くな　青木　泰子

階段は満ちて染まりぬ夕焼けの三段下まで夜に浸され　羽鳥　潤

血を分けしわが子のごとき総合誌「短歌現代」の廃刊を知る　晋樹　隆彦

いたましきもののごとくに夫は言へどかはゆし息子の宮崎なまり　大口　玲子

六万のわれら小刻みに繰り出され六万の一人一人が歩く　河野　千絵

逞しくなりたる妻を若声にきゃあと言わせるエンマコオロギ　水野　利顕

推敲の苦しさ残る稿本の捨てられし歌三千余首よ　藤島　秀憲

リ・ウーファン美術館にて贅沢な余白と濃淡のまん中に立つ　森岡　政子

丘（モーホ）とは貧民街と同義語のリオ・デ・ジャネイロは丘多き町　松岡　秀明

カーブなす駅の電車のドア開きすつぽり落ちよと誘ふ淵あり　荻野美佐子

この先は絶壁だろうとわかってるあなたの愚痴はとても複雑　川又　和志

百年後やさしく批判されながら読まれてゐたり『遠野物語』　本田　一弘

東北の上空をゆくまたいではいけないものを跨ぐ心地に　古川　典子

鳥たちは北上川を高く越え吾は浮き立つ朝迎えおり　越智　敦子

四人分五日分の洗濯終わりああ夏の旅が終わってしまった　堀越　貴乃